

1 鳥取市のすがた

(1) 背 景

日本一の鳥取大砂丘を有する「鳥取市」は、中国山地から日本海へ北流する千代川流域にひらけた鳥取平野に、古く城下町として生まれ、江戸時代は、鳥取藩池田家32万石の城下町として栄えた。明治22年10月1日市制を施行し、以来県都として、また、山陰地方東部の中核都市として、政治、経済、文化の中心となり発展をしてきた。

大正時代の千代川の度重なる氾濫、昭和18年の鳥取大地震、昭和27年の鳥取大火など幾度となく大災害に見舞われたが、その都度粘り強い市民の精神力と努力により立ち直ってきた。

その後、都市の近代化に積極的に取り組み、昭和53年に鳥取駅高架事業が、昭和55年には鳥取駅前土地区画整理事業が完成し、鳥取駅周辺の整備を行ったほか、平成11年3月には、産・学と調和のとれた住環境である鳥取新都市（ついのニュータウン）開発整備事業が完了した。

交通網の整備については、昭和42年の鳥取空港完成、平成6年12月の智頭線開通により首都圏や近畿圏とのアクセスが短縮された。平成25年3月には鳥取自動車道が全線開通し、鳥取市は待望の高速道路時代を迎えた。さらに令和元年5月には鳥取西道路が全線開通し、広域的な地域間の連携交流の活性化と雇用の拡大に取り組んでいる。また、平成22年10月に山陰海岸ジオパークが世界ジオパークに認定されたこと、平成24年4月に世界初の全天候型砂像展示専門美術館「鳥取砂丘 砂の美術館」を開設したこと、平成26年8月に、鳥取しゃんしゃん祭第50回記念大会で「最大の傘踊り」の世界記録を更新したこと、令和元年5月に麒麟のまち圏域(*1)によるストーリー『日本海の風が生んだ絶景と秘境―幸せを呼ぶ霊獣・麒麟が舞う大地「因幡・但馬」』が日本遺産に認定されたことなどを背景に、本市の知名度が高まるさまざまな取り組みを進めている。

産業の振興については、工業振興として、電気電子分野を中心とした産業構造を活かしつつ、成長分野・経済分野変動に強い産業を積極的に誘致している。また、農林水産業の振興として、二十世紀梨や松葉ガニ、砂丘らっきょうなどの特産品に関する事業にも積極的に取り組んでいる。

さらに、高齢社会への対応として社会福祉施設等の整備・充実を図り、文化施設として、世界のおもちゃなどを展示した「わらべ館」および鳥取市歴史博物館「やまびこ館」を整備したほか、教育面においては、平成13年4月に環境をテーマとした鳥取環境大学が開学し、平成27年4月に公立化された。

平成16年11月1日には鳥取県東部の6町2村との市町村合併により、山陰地方で初めて人口が20万人を超え、さらに平成17年10月1日には、特例市となった。

平成30年4月1日の中核市移行と併せて「因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏(*2)」を形成し、山陰東部圏域の中心市として圏域全体の発展に向け、各自治体等との連携による取り組みを行っている。

市制施行130周年となる令和元年11月に、本庁舎を現在の場所（鳥取市幸町）に新築移転し、防災、市民サービス、市民交流の機能を強化した。また、令和3年3月には第11次鳥取市総合計画を策定し、新たな時代にふさわしいまちづくりを進めるため、まちづくりの目標である「いつまでも暮らしたい、誰もが暮らしたくなる、自信と誇り、夢と希望に満ちた鳥取市」の実現をめざしている。

(*1) 麒麟のまち圏域…鳥取市、岩美町、若桜町、智頭町、八頭町、兵庫県新温泉町、香美町で構成される圏域

(*2) 因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏…麒麟のまち圏域と同じ市町で構成

(ア) 略年表

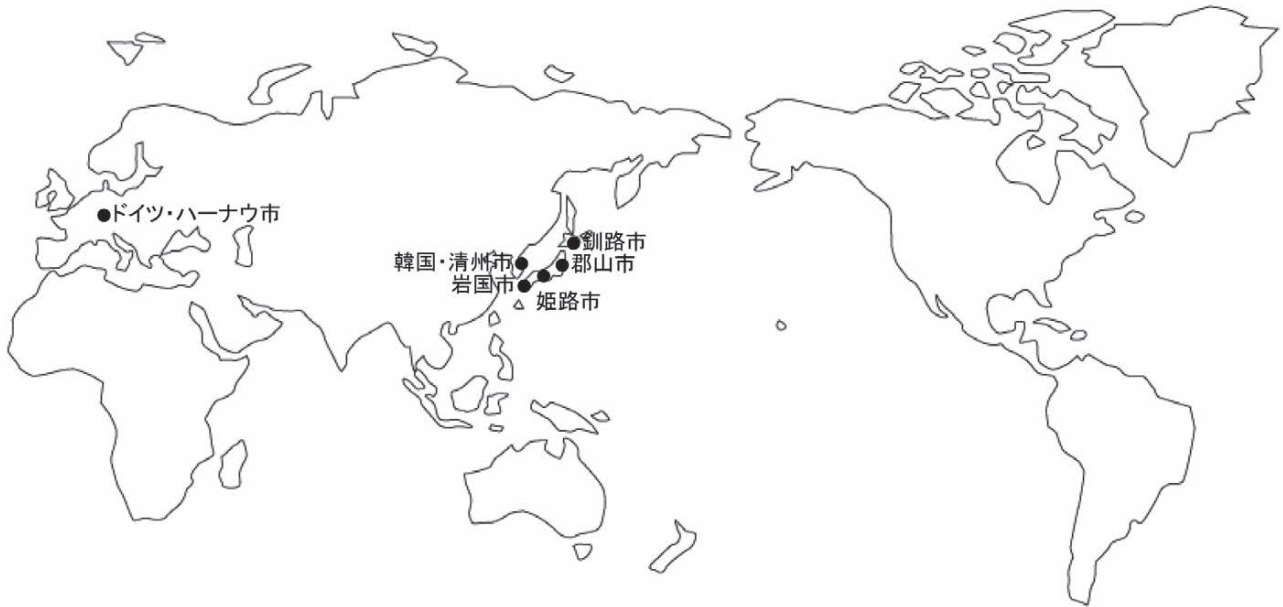
時代	西暦	年号	主 な で き ご と
明 治	1889	明治22	鳥取市制施行
	1896	29	鳥取歩兵第40連隊設置
	1907	40	仁風閣建築（皇太子を迎える）
	1910	43	口佐治村、中佐治村、上佐治村が合併し、佐治村誕生
	1912	45	山陰鉄道 京都～出雲間（現在の山陰本線）全通
大 正	1912	大正元	千代川氾濫による大洪水
	1915	4	上水道給水開始
	1918	7	千代川氾濫による大洪水
	1921	10	鳥取高等農業学校（現在の鳥取大学）開校
	1923	12	千代川氾濫による大洪水
	1925	14	駅前に温泉湧出
昭 和	1928	昭和3	服部村、塩見村が合併し、福部村誕生
	1931	6	千代川新河道付替
	1943	18	鳥取大地震（M7.2 死者1,025人）
	1949	24	鳥取大学発足
	1952	27	鳥取大火災（焼失面積1.6 k m ² ）
	1953	28	15村合併により鳥取市の行政基盤固まる（人口63千人から99千人へ）
	"	"	青谷町、日置谷村、中郷村、勝部村が町村合併し、青谷町誕生
	1955	30	鳥取砂丘が天然記念物に指定
	"	"	河原町、散岐村、西郷村、国英村、八上村が町村合併し、河原町誕生
	"	"	宝木村、酒津村、瑞徳村、逢坂村、浜村町が合併し、気高町誕生
	"	"	用瀬町、社村、大村が合併し、用瀬町誕生
	"	"	鹿野町、勝谷村、小鷲河村が合併し、鹿野町誕生
	"	"	日置村が青谷町に編入
	1957	32	大成村、宇倍野村が合併し、国府町誕生
	1963	38	鳥取砂丘が国立公園に指定、釧路市と姉妹都市提携（10月4日）
	1964	39	市庁舎完成（鳥取市尚徳町）
	1967	42	鳥取空港完成
	1972	47	姫路市と姉妹都市提携（3月8日）
	1978	53	鳥取駅高架化完成
	1983	58	つのいニュータウン事業実施基本計画の認可（9月8日）
1985	60	鳥取南バイパス、駅南広場完成、ジェット機就航、第40回国体（わかとり）開催	
1986	61	鳥取港一部供用開始	
1988	63	人口14万人突破（7月23日）	
"	"	「流しびなの館」竣工	
平 成	1989	平成元	市制施行100年、'89鳥取・世界おもちゃ博覧会開催、市役所第2庁舎開庁
	1990	2	韓国・清州市と姉妹都市提携（8月30日）、鳥取港全面供用開始
	1991	3	鳥取砂丘の草原化対策に着手（除草実験・松の抜去）
	1992	4	老人保健施設「やすらぎ」、「新産業創造センター」竣工
	1993	5	あおや郷土館オープン
	1994	6	さじアストロパーク天文台オープン
	"	"	お城山展望台「河原城」オープン
	"	"	因幡万葉歴史館オープン
	1995	7	市立病院の新築移転、わらべ館の開館（7月7日）
	"	"	岩国市と姉妹都市提携（10月13日）
	1996	8	「日本の渚・百選」に白兔海岸・鳥取砂丘が選定
	1997	9	「学習交流センター鳥取」竣工
	"	"	「東部広域リファーレンいなば」、「鳥取県東部環境クリーンセンター」竣工
	1998	10	第22回全国育樹祭、とっとり出合いの森で開催
	"	"	水道局庁舎新築移転
	1999	11	鳥取新都市（つのいニュータウン）開発整備事業完了
	"	"	議会を含めた情報公開制度の実施
	2000	12	鳥取市歴史博物館「やまびこ館」の開館（7月1日）
	"	"	農村型CATV（いなばびよんびよんネット）開局（7月1日）
	"	"	人口15万人突破（10月1日国勢調査）
2001	13	鳥取環境大学開学（4月1日）	
"	"	障害者福祉センター「さわやか会館」開館（5月23日）	
"	"	青谷上寺地遺跡展示館オープン	

時代	西暦	年号	主 な で き ご と
平成	2001	13	ドイツ・ハーナウ市と姉妹都市提携（11月20日）
	2002	14	ワールドカップサッカー・エクアドル代表チームがキャンプ
	"	"	国民文化祭・とっとり2002開催（10月12日）
	"	"	男女共同参画センター「輝（き）なんせ鳥取」オープン（10月6日）
	2003	15	個人情報保護制度スタート（4月1日）
	"	"	市民活動推進センター「アクティブとっとり」オープン（7月13日）
	2004	16	国府町、福部村、河原町、用瀬町、佐治村、気高町、鹿野町及び青谷町を編入合併（11月1日）
	"	"	人口20万人突破（11月1日）
	"	"	市役所駅南庁舎開庁
	2005	17	駅南庁舎に市中央図書館が移転開館
	"	"	特例市に移行
	"	"	鳥取市の木「サザンカ」・花「らっきょうの花」・市民歌を制定（11月1日）
	"	"	郡山市と姉妹都市提携（11月25日）
	2006	18	白兔と河原の2ヶ所の「道の駅」同時オープン
	2007	19	鳥取市の鳥「オオルリ」を制定（10月1日）
	2008	20	山陰海岸が「日本ジオパーク」に認定
	"	"	鳥取市自治基本条例制定
	2009	21	「2009鳥取・因幡の祭典」のオープニングイベント「世界砂像フェスティバル」を開催
	"	"	市制施行120周年・合併5周年を記念し、新しい市民憲章を制定（10月1日）
	2010	22	鳥取自動車道「河原IC～鳥取IC」開通（3月）
	"	"	山陰海岸ジオパークが「世界ジオパークネットワーク」に加盟（10月）
	"	"	江山浄水場完成、全面供用開始（12月）
	2011	23	食のみやこ鳥取県販売拠点施設「わたたいな」がオープン（6月）
	"	"	第31回全国豊かな海づくり大会開催（10月）
	"	"	殿ダム完成（11月）
	2012	24	鳥取環境大学公立大学法人化（4月）
	"	"	鳥取砂丘「砂の美術館」（常設設備）開設（4月）
	"	"	鳥取市庁舎整備に関する住民投票を実施（5月）
	2013	25	鳥取自動車道全線開通（3月）
	"	"	第30回全国都市緑化とっとりフェア「水と緑のオアシスとっとり2013」開催（9月～11月）
"	"	山陰道鳥取西道路「鳥取IC～鳥取西IC」開通（12月）	
2014	26	山陰近畿自動車道「駟馳山バイパス」開通（3月）	
"	"	鳥取空港東京～鳥取5便化決定（3月）	
"	"	しゃんしゃん一斉傘踊りが「世界最大の傘踊り」に認定（8月）	
"	"	山陰海岸ジオパークエリア拡大「世界ジオパーク」再認定（9月）	
2015	27	鳥取市人口ビジョン・鳥取市創生総合戦略を策定	
"	"	鳥取市医療看護専門学校開学（4月）	
"	"	第4回アジア太平洋ジオパークネットワーク山陰海岸シンポジウムが日本初開催（9月）	
2016	28	「鳥取市移住・交流情報ガーデン」オープン（1月10日）	
"	"	「鳥取市シティセールススペシャルサポーター制度」を創設	
"	"	鳥取県中部地震が発生し、青谷・鹿野地域の家屋等へ被害	
2017	29	33年ぶりの豪雪により農林水産業に甚大な被害（2月）	
"	"	第5回日本「住みたい田舎」ベストランキング総合部門1位、鳥取市が初受賞	
"	"	砂の美術館10周年記念事業「鳥取砂のルネッサンス2017」開催	
2018	30	中核市鳥取市誕生（4月1日）	
"	"	県内初の義務教育学校3校開校	
"	"	日本遺産「北前船寄港地」に鳥取市賀露地区、青谷地区が追加認定（5月）	
"	"	特別警報が発令される記録的豪雨により、家屋等へ甚大な被害（7月）	
"	"	砂丘ビジターセンターオープン（10月26日）	
令和	2019	令和元	麒麟のまち圏域（鳥取市、岩美町、若桜町、智頭町、八頭町、兵庫県香美町、新温泉町）によるストーリーが、日本遺産に認定（5月）
	"	"	鳥取西道路全線開通（5月）
	"	"	第30回全国「みどりの愛護」のつどい（5月18日）
	"	"	市制施行130周年
	"	"	市役所本庁舎新築移転（鳥取市幸町）（11月5日）
	2020	2	新型コロナウイルス感染症が広がり市民生活へも甚大な影響
"	"	男女共同参画センター「輝（き）なんせ鳥取」が鳥取大丸に移転（4月）	
"	"	鳥取市保健所が駅南庁舎に移転（5月）	

(イ) 歴代名誉市民

	氏名	議決年月日	備考
第1号	たなか まさはる 田中 政春	昭和42年9月25日	明治23年から34年の11年間にわたり2代目市長に就任。諸条例及び規則を制定。山陰線の敷設運動を進めた。また、歩兵第40連隊を誘致するなど今日の鳥取市発展の基盤づくりに貢献。(明治34年3月11日逝去)
第2号	えんどう ただす 遠藤 董	昭和42年9月25日	鳥取師範学校教師となり多くの有能な人材を育成。私立鳥取図書館(現県立鳥取図書館)を設立。私立鳥取女学校を創立。私立盲学校を創立し、現在の県立盲学校・ろう学校の礎を築くなど明治・大正・昭和の各年代にわたり、鳥取市の学校教育、社会教育の向上に貢献。(昭和20年1月22日逝去)
第3号	ゆたに よしはる 由谷 義治	昭和42年9月25日	衆議院議員に当選後、千代川改修運動に奔走し、改修事業が着手される。鳥取電機(株)社長に就任し、地元産業の育成に努めるとともに、県教育委員に選任され、教育の振興に努めるなど鳥取市の発展に貢献。(昭和33年10月8日逝去)
第4号	みうら ももしげ 三浦 百重	昭和42年9月25日	鳥取大学学長に就任、同大学各学部を統合整備し、内容の充実を図る。湖山池湖畔に統合校舎を移転新築し、工学部の新設・大学院の設置、砂丘利用研究施設を拡充して地域の開発に尽力し鳥取市の発展に貢献。(昭和47年2月29日逝去)
第5号	こじま こうきち 児嶋 幸吉	昭和44年9月24日	因幡酒造組合を設立、組合長として業界の指導にあたる。市会議員として都市計画、発電計画案を作るなど市政の発展と経済の振興に尽力。また、鳥取汽船会社、鳥取ガスなど各種会社を設立したほか、鳥取商業会議所を設立し、鳥取市の産業の発展に貢献。(昭和4年12月1日逝去)
第6号	よねはら しょうぞう 米原 章三	昭和44年9月24日	日ノ丸自動車(株)など各種会社を設立、県立女子師範学校の設置、高等農林学校の誘致、日本海新聞の創設、日本海テレビジョン放送(株)の設立、鳥取大学の統合移転促進などあらゆる部門で鳥取市の発展に貢献。(昭和42年10月19日逝去)
第7号	はやし しげひろ 林 重浩	昭和49年9月26日	鳥取中学校(現鳥取西高校)の校長に就任し、山積する問題を解決して学校を再建、野球部を創設し、野球の名門中学の礎を築く。鳥取第二中学校(現鳥取東高校)の創立と同時に校長に就任するなど鳥取市の教育振興に貢献。(昭和19年5月15日逝去)
第8号	よしだ しょうや 吉田 璋也	昭和49年9月26日	鳥取民芸会を設立し、各地の古民芸の調査研究と紹介に献身。牛ノ戸焼をはじめ陶器、木工、染織、和紙等の製作工人の援助、育成、指導に努める。「たくみ工芸店」、「鳥取民芸館」を創設し、文化財の保護・民芸の保護育成を通して鳥取市の文化の進展に貢献。(昭和47年9月13日逝去)
第9号	いとう えいしお 井植 歳男	平成元年9月26日	三洋電機(株)取締役社長を歴任、鳥取市への企業進出を英断し、鳥取三洋電機(株)の設立に尽力し、初代社長に就任。地場産業の育成と技術水準の高揚に寄与し、県下の大企業に成長させ、市勢の発展に貢献。(昭和44年7月16日逝去)
第10号	ふるた さだ 古田 貞	平成21年9月16日	「裁縫塾」を開設、家庭に役立つ良妻賢母の育成、女子生徒の教育振興に尽力。「鳥取裁縫女学校」(現鳥取敬愛高校)を開校、初代校長に就任。婦徳の養成を目指した教育理念により多くの有能な人材を送り出し、女子教育の先駆者として鳥取市に貢献。(大正11年10月18日逝去)
第11号	おかの ていいち 岡野 貞一	平成21年9月16日	東京音楽学校(現東京芸術大学)教授として、音楽教育の指導者の育成に努める。「春が来た」「紅葉」「春の小川」「おぼろ月夜」「故郷」等多くの唱歌を作曲するなど童謡・唱歌の普及に寄与し、鳥取市の文化振興の向上に貢献。(昭和16年12月29日逝去)
第12号	とおやま せいせい 遠山 正瑛	平成21年9月16日	鳥取大学農学部教授として、鳥取市の砂丘地農業振興に大きく貢献。鳥取大学乾燥地研究センターなど日本における乾燥地研究の基礎を築き、乾燥地農業研究に寄与。中国の沙漠緑化の研究に取り組み、中国内蒙古自治区の300万本を超えるポプラ植林により、鳥取市の国際交流の発展に貢献。(平成16年2月27日逝去)

(ウ) 姉妹都市



●北海道釧路市 1963年（昭和38年）10月4日 姉妹都市提携

1884年から翌年（明治17年～18年）にかけて、釧路開拓移住のため鳥取士族（105戸513人）が賀露港を出帆し、入植地に鳥取村を形成した。1949年（昭和24年）に鳥取村は釧路市と合併したが、この開拓移住に由来する交流を積み重ね、昭和38年10月4日に姉妹都市提携を締結した。釧路湿原、丹頂鶴自然公園などの魅力的な大自然や、釧路港を拠点とする漁業、水産加工業、製紙業などが特徴の北海道東部の中核都市。

●兵庫県姫路市 1972年（昭和47年）3月8日 姉妹都市提携

1600年（慶長5年）に池田長吉、1617年（元和3年）に池田光政が、それぞれ時の姫路城主池田家の家系として鳥取城主となっている。山陽新幹線の岡山開通を機に、昭和47年3月8日姉妹都市提携を締結した。智頭急行の開業に加え、中国横断自動車道姫路鳥取線の開通を見据えた各方面の交流が今日まで盛んに行われている。世界文化遺産の姫路城が有名な播磨地域の経済・文化の中心都市。

●韓国・清州市 1990年（平成2年）8月30日 姉妹都市提携

1986年（昭和61年）鳥取市長が清州市を訪問した際に、清州市長から鳥取市長に同市初の名誉市民の称号が送られたことを機に、さまざまな交流が始まった。大韓民国忠清北道に属し、首都ソウルから東南へ128kmに位置する都市。忠清北道の道都として発展し、半導体や電子部品の製造といったハイテク産業が盛んな地域。市内には世界最古の金属活字印刷本「直指心体要説」（ユネスコ世界記録遺産指定）にちなんだ清州古印刷物博物館がある。

●山口県岩国市 1995年（平成7年）10月13日 姉妹都市提携

1581年（天正9年）、羽柴秀吉の鳥取城兵糧攻めにあい、兵士・住民を救うため35歳の若さで切腹した鳥取城の城将吉川経家。「鳥取市民の命の恩人」と称される経家の子孫が代々岩国藩で家老を務めたことから両市の縁が深まり、以来友好関係が続いている。平成7年10月13日姉妹都市提携を締結した。山口県東端、広島県と接し、瀬戸内海に臨む工業・観光都市として発展しており、米海兵隊を抱える基地のまちでもある。日本三名橋の一つに数えられる錦帯橋も有名。

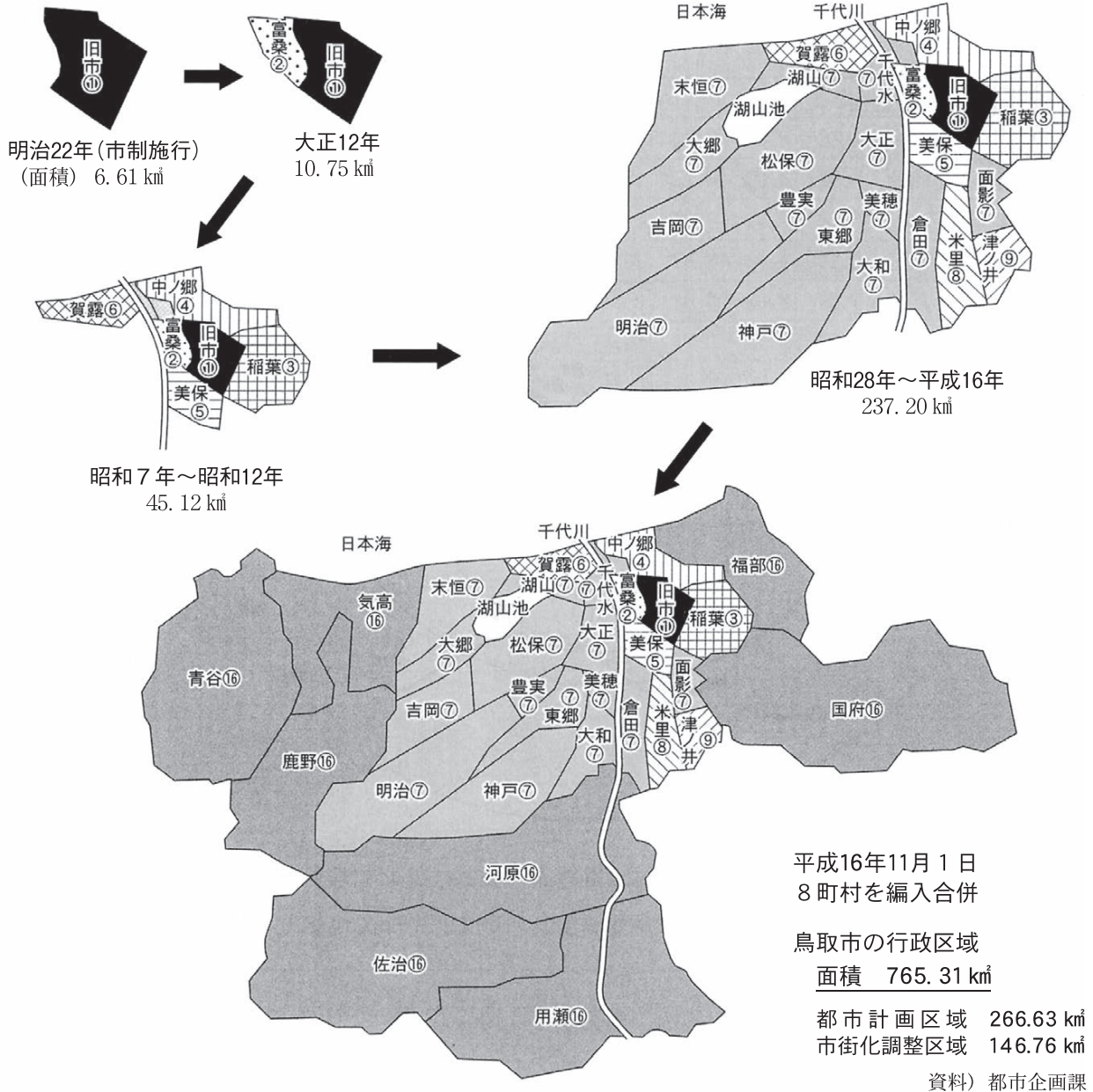
●ドイツ・ハーナウ市 2001年（平成13年）11月20日 姉妹都市提携

1989年（平成元年）に鳥取市制100周年記念事業として「'89鳥取・世界おもちゃ博覧会」を開催し、その会場にハーナウ市のヘッセン人形博物館が所蔵する世界最古の操り人形を展示したことを機に両市の交流が始まる。ドイツ連邦共和国ヘッセン州に属し、フランクフルトから東へ20kmに位置する商工業が盛んな都市。赤ずきんちゃんや白雪姫に代表される「グリム童話」の作者グリム兄弟生誕の地としても知られ、「ドイツ・メルヘン街道」の出発点にもなっている。

●福島県郡山市 2005年（平成17年）11月25日 姉妹都市提携

1880年から1887年（明治13年～20年）にかけて安積開拓（不毛の地であった安積原野を開拓する国営事業）のため、旧鳥取藩士族67戸270人余りが広谷原（現郡山市喜久田町）に移住し、苦勞の末、困難を極めた開拓事業を成し遂げた。その後、移住に関する両市の調査・研究や、移住者子孫と鳥取市民の交流などが続いている。両市は平成17年11月25日姉妹都市提携を締結した。東北新幹線や東北・磐越自動車道、福島空港など、快適な高速交通アクセスに恵まれ、東北の表玄関となっている。

(2) 鳥取市のあらし



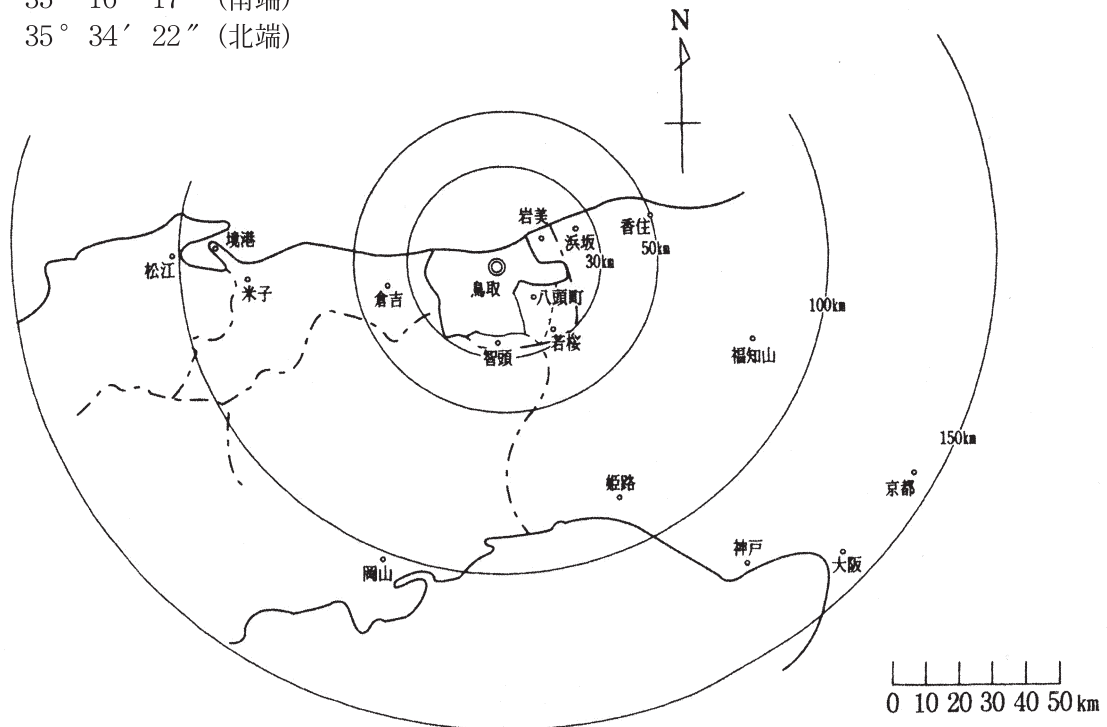
番号	年月日	面積 (km ²)	備	考
①	明治 22. 10. 1	6.61	市制施行	
②	大正 12. 5. 10	10.75	富桑村編入	
③	昭和 7. 4. 1	21.82	稲葉村編入	
④	" 8. 4. 1	34.82	中ノ郷村編入	
⑤	" 8. 10. 1	40.11	美保村編入	
⑥	" 12. 2. 15	45.12	賀露村編入	
⑦	" 28. 7. 1	219.44	神戸村、大和村、美穂村、大正村、東郷村、豊実村、明治村、吉岡村、大郷村、末恒村、湖山村、松保村、千代水村、面影村、倉田村編入	
⑧	" 30. 7. 20	227.39	米里村編入	
⑨	" 38. 4. 22	237.25	津ノ井村編入	
⑩	" 51. 12. 1	237.29	河原町と境界変更	
⑪	" 59. 11. 1	237.28	国府町と境界変更	
⑫	平成元. 11. 10	237.01	官報公告により面積値修正 (国土地理院「全国都道府県市町村別面積調」)	
⑬	" 2. 7. 27	237.06	公有水面埋立	
⑭	" 2. 11. 2	237.09	公有水面埋立	
⑮	" 9. 7. 1	237.20	公有水面埋立	
⑯	" 16. 11. 1	765.66	国府町、福部村、河原町、用瀬町、佐治村、気高町、鹿野町、青谷町編入	
⑰	" 27. 3. 6	765.31	官報公告により面積値修正 (国土地理院「全国都道府県市町村別面積調」)	

(3) 地 勢 ・ 気 象

(ア) 位 置

東経 134° 26′ 27″ (東端)
 133° 56′ 46″ (西端)
 北緯 35° 16′ 17″ (南端)
 35° 34′ 22″ (北端)

鳥取市の位置図

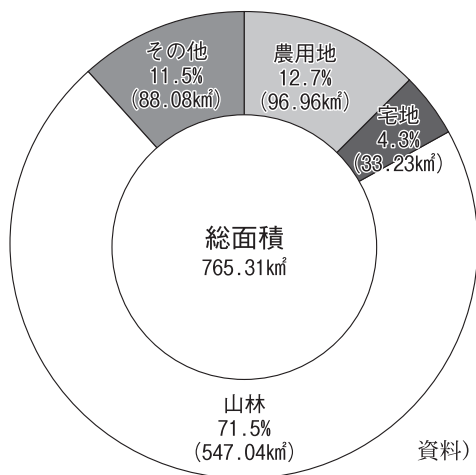


鳥取市は、鳥取県の東北部に位置し、北は日本海に面し、東は岩美町および一部兵庫県、西は湯梨浜町および三朝町、南は八頭町、智頭町および一部岡山県と接し、県庁所在都市として鳥取県東部広域圏の中心をなしている。

岡山、姫路からは100km、神戸、大阪、京都からは150kmの圏域にある。

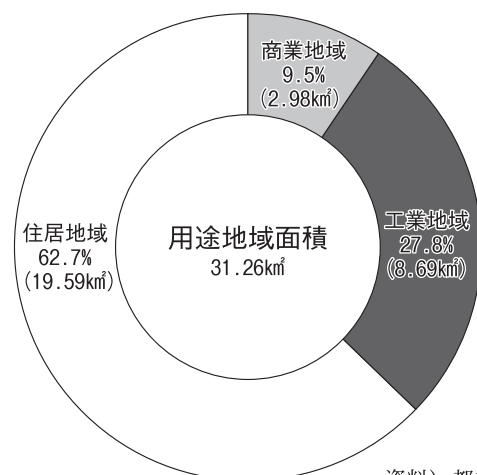
(イ) 面 積

ア 土地利用 (令和3年4月1日)



資料) 固定資産税課
林務水産課

イ 用途地域 (令和3年4月1日)



資料) 都市企画課

(ウ) 気 象

月別気象の状況

上段 令和2年

下段 1991年～2020年の平年値

要素		全年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
気温 (°C)	平均	15.9	7.4	6.6	9.7	11.6	18.7	23.3	24.6	29.3	23.9	16.8	13.0	6.1
		15.2	4.2	4.7	7.9	13.2	18.1	22.0	26.2	27.3	22.9	17.2	11.9	6.8
	日最高 平均	20.9	11.4	11.2	15.1	17.1	24.1	28.5	28.4	35.0	29.0	21.8	18.1	10.6
		20.1	8.1	9.1	13.1	18.9	23.8	26.9	30.9	32.6	27.8	22.4	16.8	10.9
	日最低 平均	11.7	3.9	2.3	4.5	6.4	14.0	18.7	21.7	25.0	20.2	12.7	8.4	2.8
		11.0	1.1	1.0	3.1	7.6	12.9	17.9	22.5	23.3	19.0	12.9	7.7	3.2
日照時間 (時間)	1,726.8	64.9	97.7	156.7	190.9	208.8	194.0	63.6	264.0	131.5	143.9	125.3	85.5	
	1,669.9	69.0	83.7	131.3	177.4	201.4	153.9	166.5	203.8	143.4	146.1	110.7	82.6	
降水量 (mm)	2,096.0	118.0	120.0	148.5	219.5	74.5	288.0	272.5	8.5	261.5	111.0	114.5	359.5	
	1,931.3	201.2	154.0	144.3	102.2	123.0	146.0	188.6	128.6	225.4	153.6	145.9	218.4	

資料) 鳥取地方気象台 (観測地点: 鳥取市吉方)

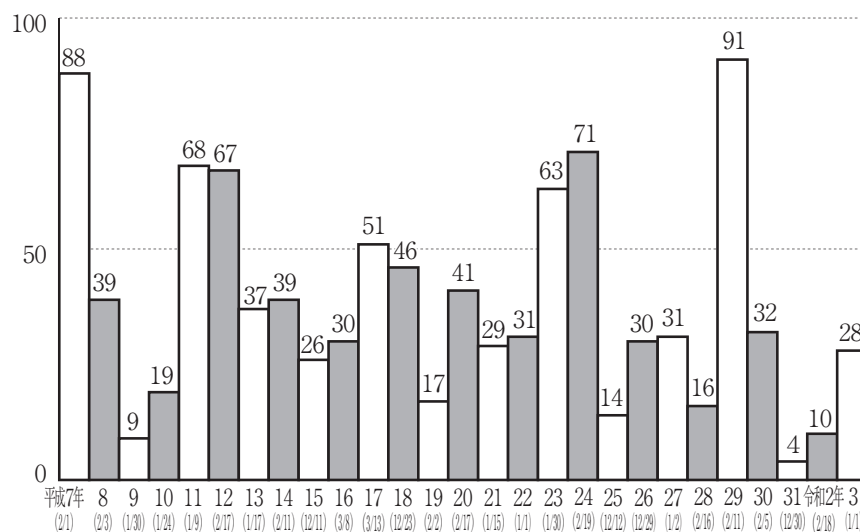
年次別気象の状況

年次	平均海面 気圧 (hPa)	気温 (°C)			湿度 (%)		風速 (m/s)		降水量 (mm)	日照時間 (時間)
		平均			平均	最小	平均	最大		
		平均	最高	最低						
平成28	1,015.6	16.0	20.9	11.9	75.0	9.0	2.9	18.2	1,795.0	1,713.4
29	1,015.2	15.2	20.2	10.9	73.0	11.0	3.1	16.9	2,248.0	1,828.5
30	1,015.7	15.7	20.7	11.5	74.0	16.0	3.1	14.8	2,183.5	1,825.7
令和元	1,015.4	16.0	21.0	11.6	75.0	12.0	3.0	14.8	1,536.5	1,723.4
2	1,015.5	15.9	20.9	11.7	76.0	12.0	3.1	15.7	2,096.0	1,726.8

資料) 鳥取地方気象台 (観測地点: 鳥取市吉方)

最深積雪量の推移 (前年10月から当年4月)

(cm)

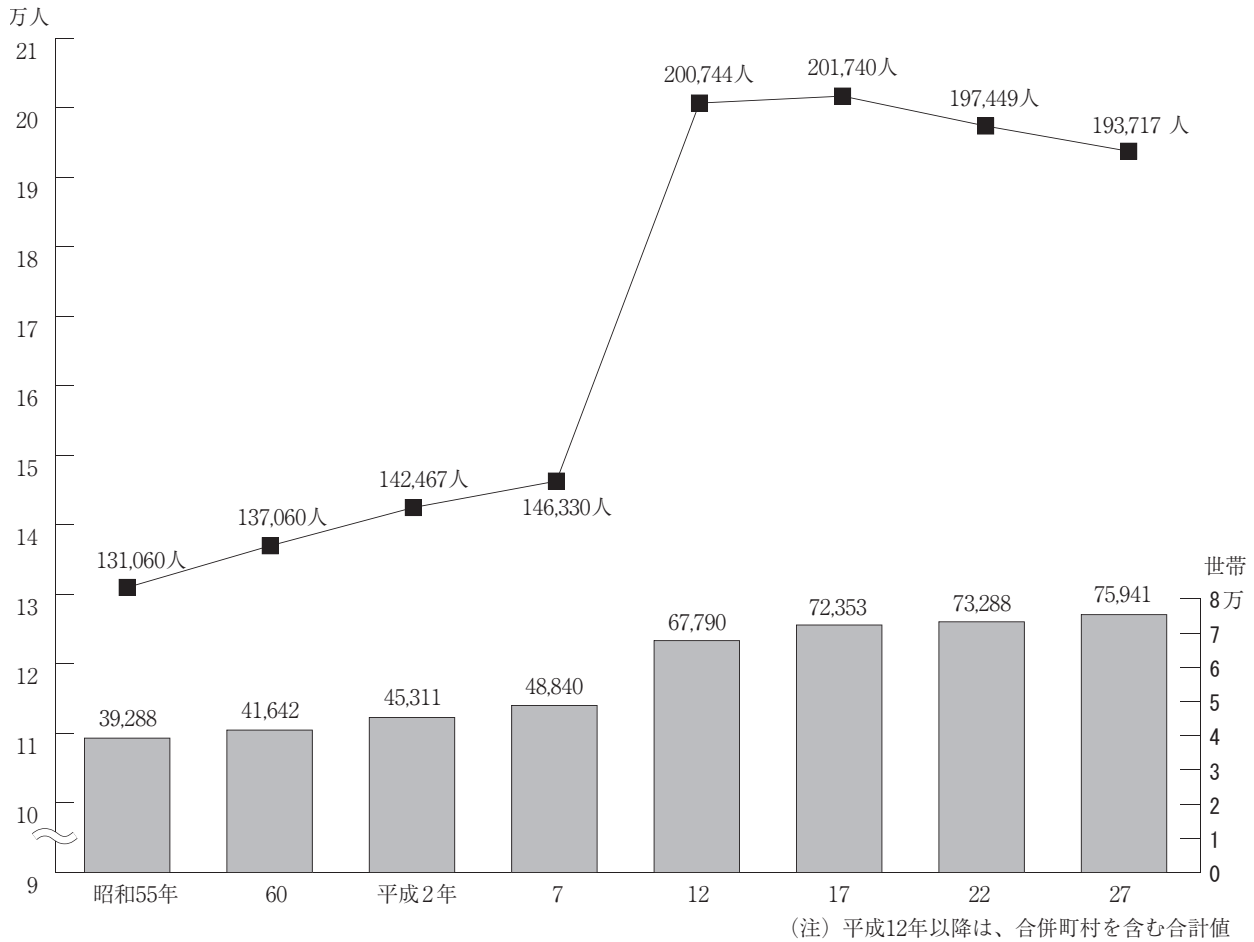


(注) () 内は最深積雪日

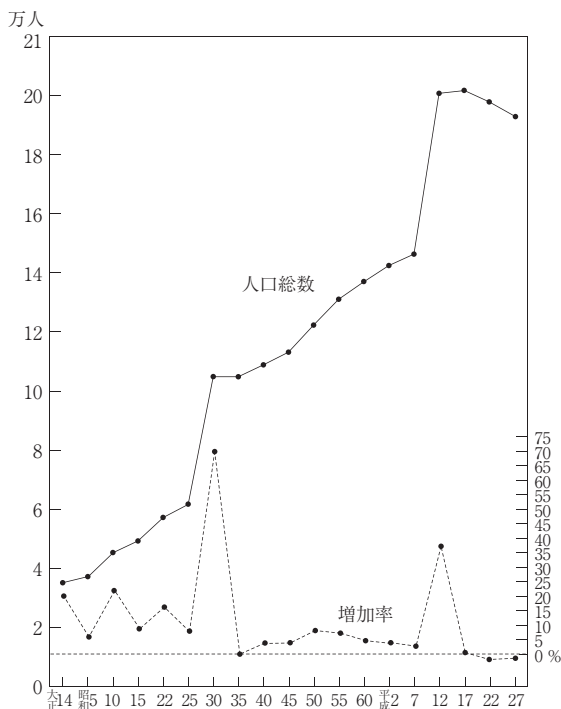
資料) 鳥取地方気象台 (観測地点: 鳥取市吉方)

(4) 人口・世帯数（年次別）

(ア) 総人口・世帯の推移「国勢調査」

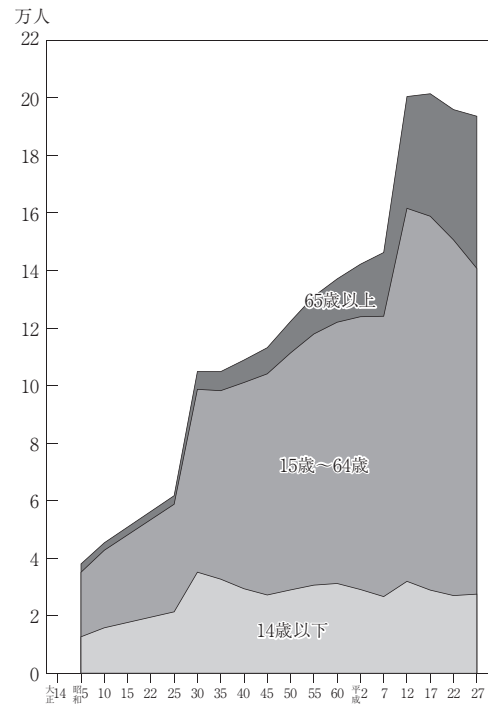


人口の推移 (大正14年～平成27年)



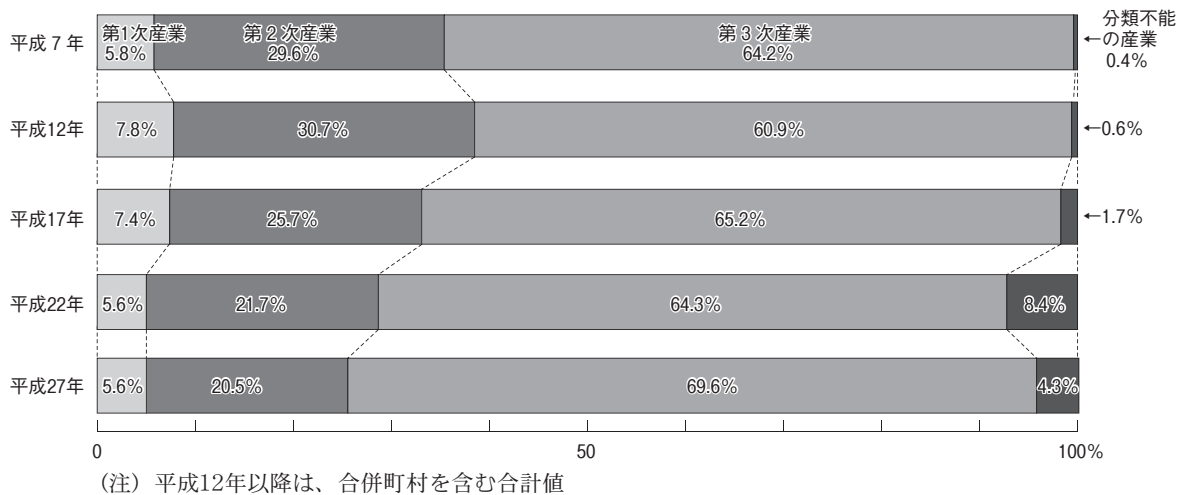
(注) 平成12年以降は、合併町村を含む合計値

年齢（3区分）別人口の推移 (大正14年～平成27年)



- (注1) 平成12年以降は、合併町村を含む合計値
- (注2) 年齢不詳があるため、合計値と合致しない場合がある。
- (注3) 昭和15年、22年は年齢別人口データなし

(イ) 産業別就業者数の推移 「国勢調査」



(人)

区 分		平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
就 業 者 数		73,688	103,039	99,613	96,023	93,021
内 訳	第 1 次 産 業	4,242	8,014	7,419	5,321	5,219
	農 業	3,952	7,501	7,037	4,881	4,749
	林 業	71	175	100	216	240
	漁 業	219	338	282	224	230
	第 2 次 産 業	21,820	31,642	25,616	20,825	19,037
	鉱 業	21	64	25	16	14
	建 設 業	7,088	11,519	9,655	7,136	7,149
	製 造 業	14,711	20,059	15,936	13,673	11,874
	第 3 次 産 業	47,339	62,754	64,934	61,790	64,810
	電 気 ・ ガ ス ・ 熱 供 給 ・ 水 道 業	481	601	506	469	519
運 輸 (通 信) 業	3,353	4,252	3,018	3,203	3,192	
情 報 通 信 業			1,280	1,338	1,506	
卸 売 ・ 小 売 業 (飲 食 店)	17,115	21,324	16,675	14,303	13,783	
金 融 ・ 保 険 業	2,762	3,077	2,706	2,724	2,745	
不 動 産 業	494	558	682	1,022	1,145	
飲 食 店 、 宿 泊 業			4,704	5,026	4,904	
医 療 、 福 祉			9,720	11,393	13,665	
教 育 、 学 習 支 援 業			5,769	5,567	5,703	
複 合 サ ー ビ ス 業			1,548	770	839	
サ ー ビ ス 業	19,494	27,760	12,952	11,027	11,767	
公 務	3,640	5,182	5,374	4,948	5,042	
分 類 不 能 の 産 業	287	629	1,644	8,087	3,955	

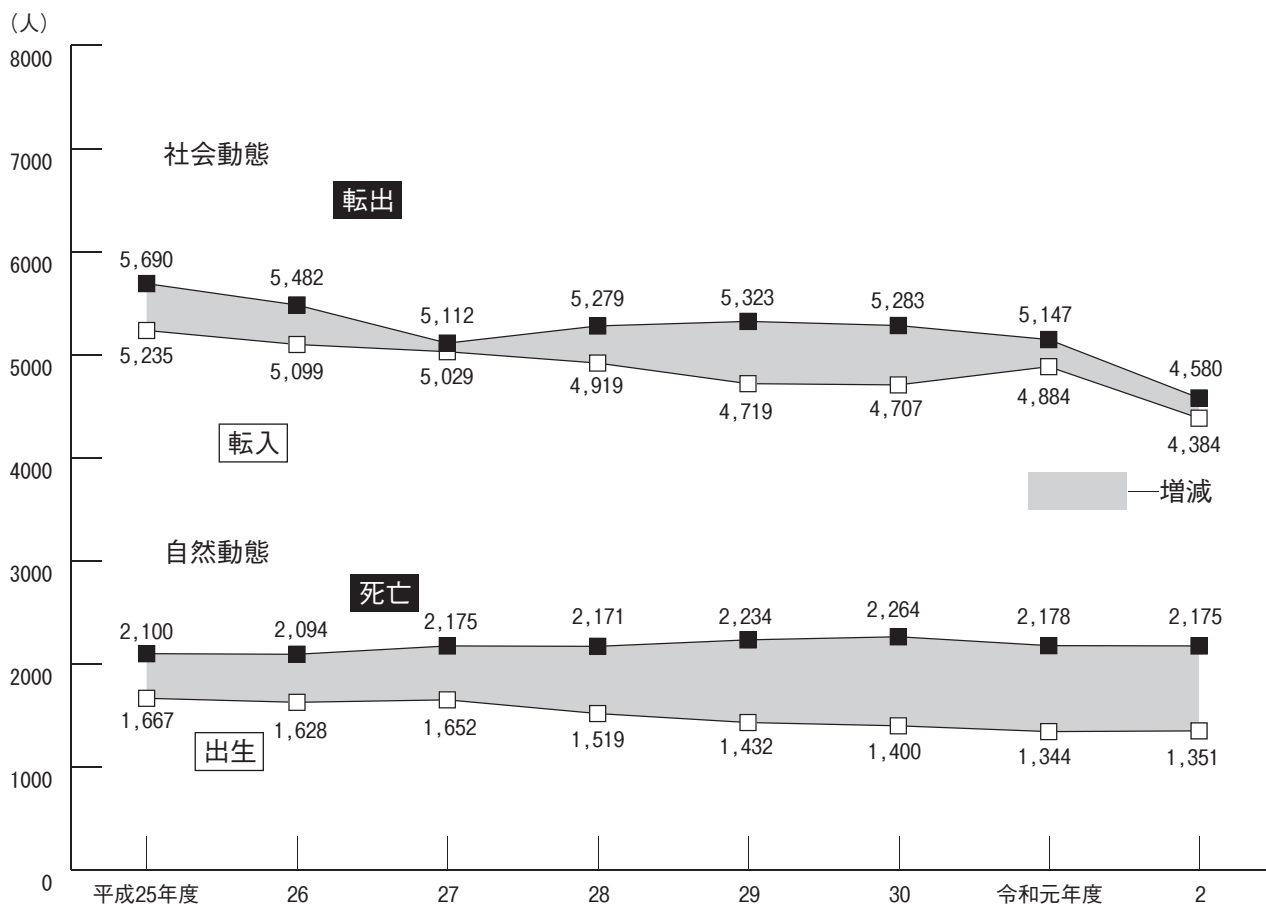
(注1) 平成12年以降は、合併町村を含む合計値
(注2) 平成17年国勢調査より産業分類再編

(ウ) 人口集中地区 (DID) 「平成27年国勢調査」

区 分	鳥取市	人口集中地区			準人口集中地区 (美萩野の一部 浜坂の一部 若葉台の一部)
		総 数	I 市街地 周辺	II 賀露の一部 湖山の一部	
人口総数 (人)	193,717	100,756	83,335	17,421	11,722
面 積 (km ²)	765.31	19.03	15.35	3.68	1.80

(注) 人口・面積は、合併町村を含む合計値

(工) 人口動態「住民登録」



(才) 人口推移「住民登録」

各年度3月末現在

年度	人口	増加数	増加数		世帯数
			自然増	社会増	
平成25年度	192,660	△ 888	△ 433	△ 455	77,578
26	191,772	△ 849	△ 466	△ 383	78,099
27	191,152	△ 606	△ 523	△ 83	78,677
28	190,139	△ 1,012	△ 652	△ 360	79,121
29	188,739	△ 1,406	△ 802	△ 604	79,476
30	187,288	△ 1,440	△ 864	△ 576	79,755
令和元年度	186,180	△ 1,097	△ 834	△ 263	80,319
2	185,157	△ 1,020	△ 196	△ 824	80,802

(注) 平成24年7月以降は住民登録に外国人住民を含む。

(カ) 年次別人口・世帯数（明治22年～令和元年）

住民登録各年12月31日現在

年次	世帯数	総人口	男	女	年次	世帯数	総人口	男	女
明治 22	5,975	27,898	13,652	14,246	昭和 5	7,884	37,189	18,080	19,109
24	6,303	28,520	14,121	14,399	6	7,977	40,274	19,730	20,544
26	6,661	26,786	13,171	13,651	7	8,240	41,845	20,621	21,224
28	5,974	27,867	13,694	14,173	8	8,990	46,690	22,963	23,727
30	6,107	27,452	13,028	14,424	9	9,145	46,748	22,968	23,780
32	6,026	27,584	13,342	14,242	10	9,225	46,854	23,089	23,765
34	6,431	30,594	14,929	15,665	11	9,234	46,948	22,978	23,970
36	6,783	31,023	15,318	15,705	12	9,967	50,356	24,333	26,023
38	6,384	31,809	15,575	16,234	13	9,877	50,280	23,981	26,299
40	6,364	32,571	15,889	16,682	14	9,963	50,686	23,893	26,793
42	5,692	33,661	16,441	17,220	15	10,071	49,261	23,058	26,203
44	5,836	35,068	17,373	17,695	16	10,463	48,177	22,048	26,129
大正元	5,939	35,951	17,626	18,325	17	10,505	49,401	22,101	27,300
2	5,959	37,283	18,292	18,991	18	9,856	44,427	20,043	24,384
3	5,874	37,425	18,535	18,890	19	10,193	45,449	20,554	24,895
4	5,910	37,429	18,538	18,891	20	11,300	51,848	23,361	28,487
5	5,983	37,749	18,581	19,168	21	11,672	53,158	24,297	28,861
6	6,002	37,789	18,681	19,108	22	12,761	57,218	26,895	30,323
7	5,862	34,160	16,419	17,741	23	13,069	58,340	27,510	30,830
8	5,843	35,117	17,086	18,031	24	13,706	60,876	29,525	31,351
9	6,341	29,273	13,794	15,479	25	13,788	61,721	29,295	32,426
10	6,136	33,458	16,052	17,406	26	14,202	62,687	29,760	32,927
11	6,125	29,700	14,000	15,700	27	14,268	63,044	29,820	33,224
12	6,931	32,900	15,500	17,400	28	20,879	98,520	47,396	51,124
13	7,227	34,009	16,124	17,885	29	21,728	101,783	49,041	52,742
14	7,523	35,120	16,749	18,371	30	21,616	104,880	50,724	54,156
昭和元	7,089	38,770	18,831	19,939	31	23,279	106,145	51,064	55,081
2	7,325	38,977	18,876	20,101	32	24,228	107,329	51,584	55,745
3	7,440	39,028	18,881	20,147	33	24,697	108,400	52,067	56,333
4	7,620	40,108	19,594	20,514	34	25,446	109,492	52,612	56,880

年次	世帯数	総人口	男	女	年次	世帯数	総人口	男	女
昭和 35	26,367	110,044	52,966	57,078	平成 3	47,658	142,860	69,154	73,706
36	27,324	110,388	53,082	57,306	4	48,129	143,422	69,401	74,021
37	28,465	110,689	53,123	57,566	5	48,737	144,318	69,749	74,569
38	29,399	112,633	54,009	58,624	6	49,327	144,931	70,073	74,858
39	30,019	113,305	54,365	58,940	7	50,143	145,757	70,488	75,269
40	30,038	114,880	55,118	59,762	8	50,815	146,346	70,760	75,586
41	30,823	115,198	55,326	59,872	9	51,682	146,900	71,055	75,845
42	31,859	115,961	55,740	60,221	10	52,580	147,686	71,384	76,302
43	32,119	116,859	56,279	60,580	11	53,242	147,996	71,531	76,465
44	33,922	115,748	55,881	59,867	12	54,252	148,857	72,004	76,853
45	34,783	115,636	55,433	60,203	13	55,050	149,281	72,296	76,985
46	34,496	114,727	54,920	59,807	14	55,883	149,770	72,509	77,261
47	35,213	116,452	55,652	60,800	15	71,521	200,358	96,621	103,737
48	36,097	118,620	56,879	61,741	16	72,449	200,532	96,836	103,696
49	36,938	120,685	57,980	62,705	17	72,969	199,734	96,423	103,311
50	37,647	122,472	58,915	63,557	18	74,030	199,382	96,212	103,170
51	38,046	124,095	59,709	64,386	19	74,687	198,577	95,769	102,808
52	38,506	125,555	60,441	65,114	20	74,982	197,216	95,107	102,109
53	38,961	126,916	61,130	65,786	21	75,700	196,647	94,761	101,886
54	39,571	128,497	61,964	66,533	22	76,241	195,946	94,548	101,398
55	40,116	129,909	62,589	67,320	23	76,647	195,139	94,116	101,023
56	40,729	131,285	63,231	68,054	24	77,580	195,248	94,084	101,164
57	41,344	132,422	63,833	68,589	25	77,816	193,894	93,453	100,441
58	41,617	133,191	64,313	68,878	26	78,430	193,045	93,007	100,038
59	42,515	135,274	65,683	69,591	27	78,841	191,969	92,462	99,507
60	43,224	136,444	66,235	70,209	28	79,235	190,960	91,950	99,010
61	43,921	137,571	66,849	70,722	29	79,760	189,799	91,482	98,317
62	44,601	138,441	67,240	71,201	30	79,960	188,286	90,764	97,522
63	45,400	139,855	67,943	71,912	令和元	80,367	186,961	90,123	96,838
平成元	46,186	140,973	68,444	72,529	2	80,799	185,890	89,620	96,270
2	46,948	142,026	68,864	73,162					

(注) 平成15年以降は、合併町村を含む合計値。